

親子の学び応援講座



〈目的〉 本県における家庭教育の推進に向けて、喜多方市立第一小学校PTAを対象に講座を行い、親子の学び・家庭での実践活動を支援する。

喜多方市立第一小学校PTAにおける講座の様子

- ◆とき 令和4年6月11日(土)
- ◆ところ 喜多方市立第一小学校 会議室
- ◆参加者 47名(保護者、教職員・その他)
- ◆講演 演題：ネット・ゲームとの上手な付き合い方
講師：けやき心の発達診療所(精神科医) 所長 角田 智哉 氏

1<テーマ設定の理由及び実践活動のねらい>

- (1) ネット・ゲームが心身に与える影響や依存症による問題を医学的な観点から理解し子どもに適切な対応ができるようにする。
- (2) 本校独自のメディアルールを実施するにあたって、保護者・学校のそれぞれの立場で、対応の大切さを理解できるようにする。

2<要 点>

(1) SNS について

- 1日3時間以上 SNS を利用していると、心に影響を与える。
- SNS は視覚情報のみに頼った世界である。
- SNS は、他人の恵まれた生活を見ることで、自分の生活が嫌になる傾向がある。



(2) ゲームの良さについて

- 現実では、不可能なことができる。
- 仲間と協力しながら、ゲームをすることで協調性が身に付く。
- 読解力、反応時間、問題解決能力を高めることができる。
- ストレスを発散することができる。

(3) ゲームをすることの影響について

- ゲームがやりたくて、宿題をやらなくなる。
- ゲームに夢中になり、学業成績への興味が低下する。
- ゲーム以外は、やる気がなくなる。
- 屁理屈が多くなる。
- 連続してゲームをすることで、身体に大きな影響を与えることもある。



(4) 子どもがどんなゲームをやっているか把握する

- ゲームの種類によって、家庭の中だけでルールを決めてもダメな場合がある。
(オンラインを使って協力して行うゲームは、やめたくてもやめられない場合がある。)
- 学校全体、地域全体で、何時以降はゲームをしないなど、ルールを決める必要がある。

(5) 質疑応答

Q1 子どもにゲームを持たせた方がよいのか。

- 子どもがほしいと言った時に考える。
親が将来のことを考えて買い与えることは、やらなくてよい。

Q2 子どもがゲームを持っていないと、いじめられるのではないか。

- いじめにあうようなコミュニティには入らない方がよい。

Q3 お兄ちゃんの時は、夜中にゲームをやっていた。オンラインで、協力しながら行うゲームだったので、やめさせ方が難しかった。どのようにやめさせればよいか。

- まずは、子どもとケンカしないこと。ケンカしてもやめさせることはできない。距離を取って見守ったり、距離を縮めて話しかけたりしながらゲームのルールについてじっくり伝えていく必要がある。



参加者の感想から

- 先生のお話を聞いて、ゲームのタイプを考えて与えたり、子どもと話し合いながら、ゲーム使用についての目標を決めたりすれば、ゲームを恐れず与えてもいいのではないかと思います。
- ゲームの使用について、親の注意の仕方を少し変えただけで、子どもの耳に届くことが分かりました。親も考えながら言葉を発しないといけないと思いました。
- ゲームの使用について、一方的に怒るのではなく、考え方、声の掛け方を変えることで始められることが沢山あるのだと改めて気が付きました。
- 自分自身も小学校の頃、ゲームをやっていたこともあり、ゲームに対して肯定的な考えでした。でも、自分の子どもとなると、ゲームとの付き合い方の難しさを痛感していました。この講座を機に、子どもに寄り添って、うまく声掛け等をしていきたいと思います。
- 家でゲームだけでなく、他に楽しめることを見つけていきたいと思いました。早速、子どもと一緒に家の掃除をしたり、食事を作ったりしたいと思います。